



## 令和5年度 第Ⅱ回佐倉路地裏探検隊

佐倉城下町の変遷 (昭和15年前後と令和5年3月末(83年後)との比較)



令和5年5月17日(水)



# 佐倉路地裏探検隊

## 1. 参考文献；

- 1) 佐倉市誌研究 16・20・32号他関係各号
- 2) 「古今佐倉真佐子」 渡邊善右衛門著 正徳年間(1711~1716)前後の佐倉の見聞や伝説等をつ後の任地淀にて書く。兄弟本として「淀古今真佐子」をも書く)
- 3) 「佐倉お茶の間風土記(昭和54年3月15日発行・新佐倉真佐子を作る会発行)
- 4) 「佐倉連隊にみる戦争の時代」(国立歴史民俗博物館編集)
- 5) 「一分一間佐倉絵図」(成田仏教図書館蔵・寛永6年=1624=作図)
- 6) 「旧総州佐倉城府内の街並みを時代を超えて読み解く」拙著 平成31年2月発行 平成30年1月1日現在との比較)
- 7) 「佐倉文庫第1集 古今佐倉真佐子」(昭和47年11月3日発行)
- 8) 佐倉市史料叢書「古今佐倉真佐子」(平成29年3月31日発行)
- 9) 佐倉文庫第2集・同第3集 (昭和49年・同52年 佐倉市教育委員会発行)
- 10) その他

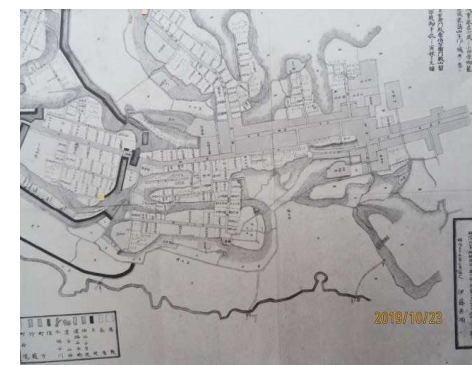
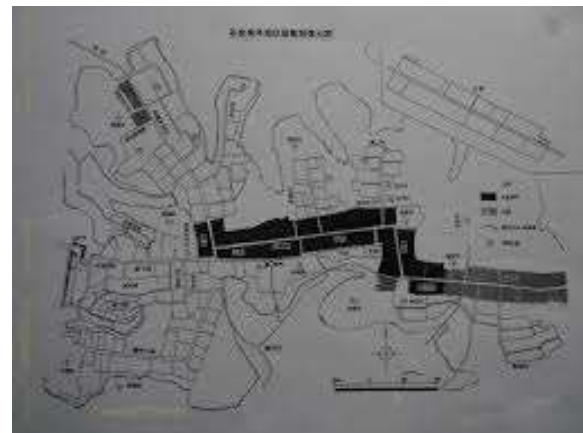
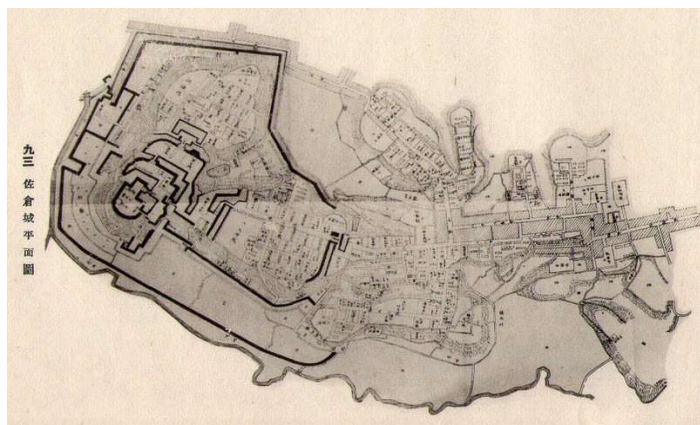
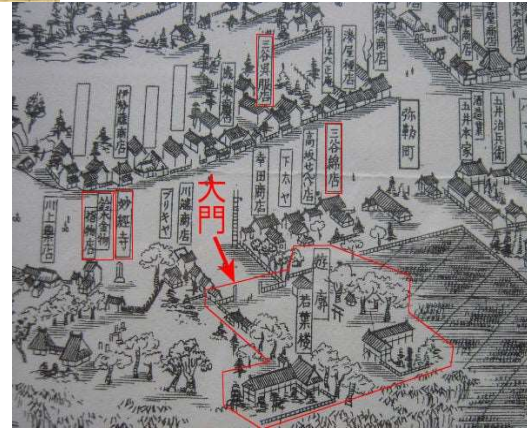
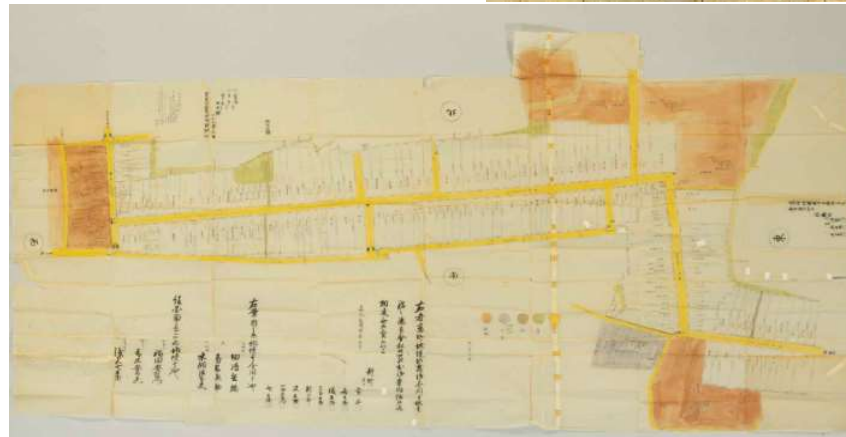
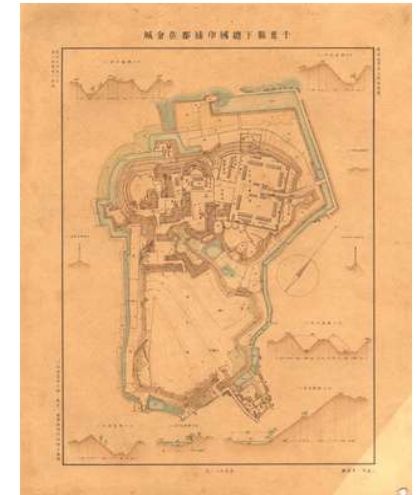


## 2. 比較の目的；

- 1) 旧佐倉城城下町地域の街並みや店舗等の変遷が急激に進み、待割りが特色であったにもかかわらず、佐倉市の城下町等の景観環境保全等制定が遅れ、町割り自身が分譲され住宅地にされた。合わせ、おの新宅の高さ・色等の規制が全くなされなかった。旧商店や蔵等ほ保全に多額の費用負担があり、止む無く閉店・取り壊し等が進んだ。新町・裏新町等城下町は歩道整備が不十分で観光客の案内にも不便をきたす状態にあります
- 2) 参考資料にある、昭和15年と明治末～戦後～昭和末期の城下町の状況がある程分かる参考資料、又同じ趣旨で調査された令和4度発行の拙著(参考資料参照)等から、更に深掘りした令和5年3月末の改めて調査し直しました。旧佐倉城下町の現状とその変化を市民に知っていただく必要性を感じた為です。いつか誰かがこの後の城下町の変化をまとめてくれる事を信じています
- 3) 有形・無形の文化財はある程度行政の手を借りねば、直ちに破壊され無くなってしまうものです。城下町の風情(町割り・旧家・蔵・井戸・道等等)は今しか守れません。大半が壊されました。現在に生きる私達市民の役割と考えます。行政と市民が協力して守っていきましょう



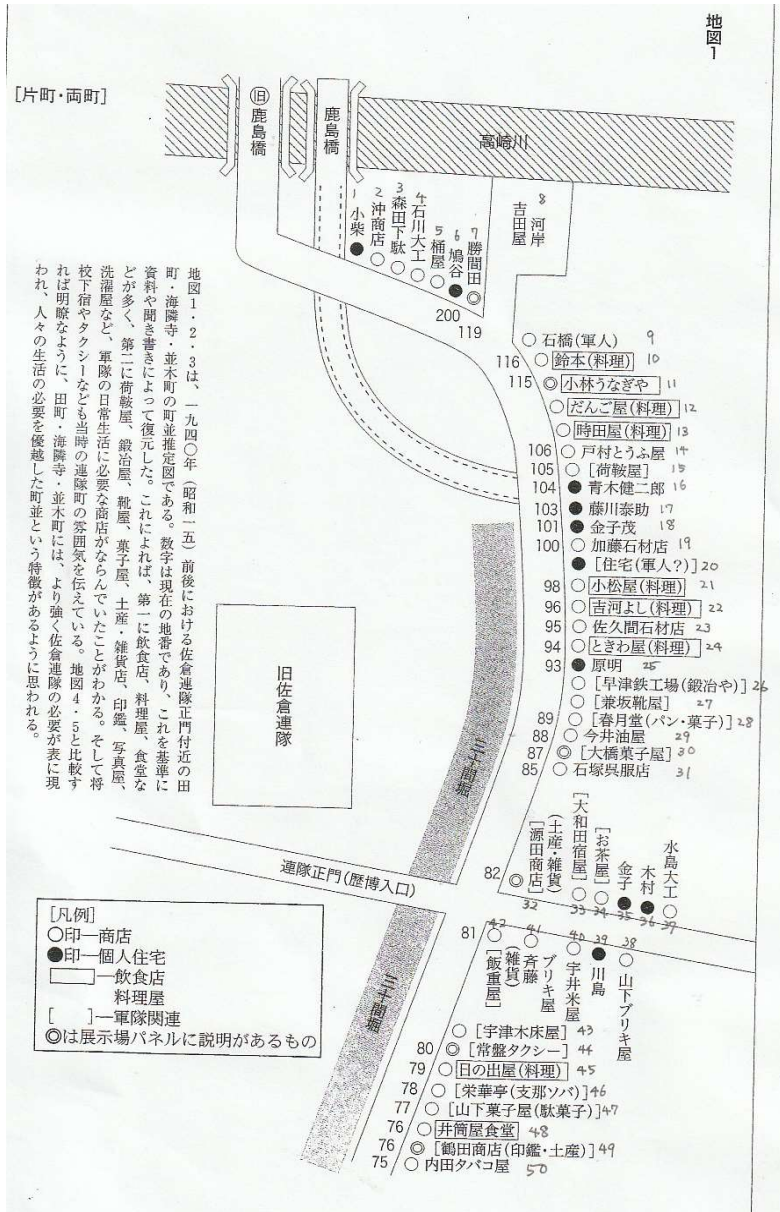
3. 佐倉城下町の参考資料他；







4-1. 昭和15年前後の城下町 地図1&2 (「佐倉連隊にみる戦争の時代」 歴史民俗博物館振興会発行による)







4-3. 昭和15年前後の城下町 地図5 (「佐倉連隊にみる戦争の時代」 歴史民俗博物館振興会発行による)





5. 昭和15年と現在との比較に際し、調査並びに纏めにあたったの注意点；

- 1) 昭和15年度の街並みに記載（佐倉市誌研究にも同様）の店舗名・個人名等記載されているが、今回は出来る限り避けた（個人情報のため）但し一部記載が残っている個所もある
- 2) 昭和15年の地図と現在の地図の幹道・脇道との間の軒数を基準に比較したが、土地が分枝さていた為不明確や間違いが多々あるかもしれません。具体的に正確な住宅地図では調査していないので御容赦ください
- 3) 今回は地図に記載の地番では探していません。上から左から等地図の店舗・家宅の順番に番号を付け調査しました

第2次世界大戦前後の旧城下町の写真の収集や、どのような商いをされておられたのか、店名は何であったのか御存じの方も年々少なくなって来ております。今の内に記録に残しておかないと城下町の街並みの変化のスピードに負けてしまいます。行政側も是非記録に残していただきたいものです



6. 佐倉路地裏探検隊による令和5年5月17日他2回・2グループによる鹿島橋～弥勒町迄現地調査結果と昭和15年頃との比較結果；